

平成 27 年度 一般採用試験前期

地理歴史 (世界史) 試験問題 (13頁中の1)

(人文・社会科学専攻)

(注意) 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

1 以下の問題文(01)～(03)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(01)

581年、隋王朝を開いた楊堅(文帝)は、589年に南朝の陳を滅ぼし、[ア]長期にわたり分裂状態にあった中国を再び統一した。文帝は内政の整備に重点をおいた。地方行政では、州・郡・県という3級制の行政区分を州・県の2級制へと改め、地方行政官の人員削減と事務の簡素化をはかった。また、[イ]従来の官吏登用制度にかわる新たな制度を創設した。

文帝の後継者の煬帝は、大規模な土木事業と軍事遠征を実施した。土木事業には、長城の改修などもあるが、もっとも注目されるのは、[ウ]江南と華北とを結ぶ大運河を完成させたことであろう。また、[エ]外政面では、突厥・吐谷渾・高句麗などを対象に積極策を展開した。

617年、太原をたつて長安に入った李淵は、618年に唐王朝を樹立した。その後628年までの10年間に及ぶ国内平定事業に活躍したのは、唐の高祖(李淵)の次男の[オ]であった。軍事的成功によって名声を高めた彼は、626年6月、玄武門(長安の宮城北門)の変で、皇太子であった長兄の李建成や弟の李元吉を殺害した。この事件後に皇太子となった彼は、同年8月に第2代皇帝太宗となった。太宗は、630年に東突厥を服属させ、640年には高昌国を滅ぼして西州を設置した。そして、[カ]第3代皇帝の高宗の時代、唐の版図は最大となった。

隋代から唐代にかけて、府兵制という兵制が実施された。この兵制は、西魏で編成された二十四軍に由来する。ただし、西魏や北周では、一般農民と区別された軍戸を対象とした兵制であった。だが、軍戸は隋代の590年に解消され、[キ]それ以降、府兵制は一般農民を対象とする全国的な徴兵制となった。[ク]この府兵制の負担は、農民にとってかなり重いものであった。なお、唐代には、周辺の諸民族の動きもしだいに活発化していった。そのため、やがて府兵制での対応が困難になる事態が生じた。[ケ]こうして第6代皇帝の時代には、職業兵士が内地でも辺境でも登場することとなった。

朝鮮半島の南部では、4世紀中頃に新羅・百済・加羅(加耶, 任那)が成立した。[コ]中国東北地方から朝鮮半島北部を領有した高句麗は、新羅や百済と勢力を競った。これらの諸国は、中国の南朝や北朝に朝貢して冊封を受け、中国の王朝の権威を借りながら抗争を続けた。7世紀になると、朝鮮半島の情勢に大きな変化が生じる。唐の支援を受けた新羅は、660年に百済を滅ぼし、668年には高句麗を滅ぼした。新羅は、その後676年に唐の勢力を排除して、朝鮮半島に最初の統一国家を樹立した。朝鮮半島の統一に成功した新羅(いわゆる統一新羅)は、あらためて唐の冊封を受け、中華文明を受容しながら中央集権体制を確立した。[カ]新羅は、独自の身分制度によって貴族中心の社会秩序を整え、また仏教を保護したので仏教文化が栄えた。なお、[シ]7世紀の末期には、渤海が建国された。

設問1 下線部[ア]について、隋王朝の前に中国を統一した王朝を答えなさい。

設問2 下線部[イ]について、従来の官吏登用制度を答えなさい。

設問3 下線部[ウ]について、この大運河の南端に位置したのはどの都市か。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 杭州
- B 広州
- C 揚州
- D 泉州

設問4 下線部[エ]について、外政における積極策の効果はどうであったか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 南突厥を服属させ、吐谷渾を隋の領域に編入させたが、高句麗遠征は失敗に終わった。
- B 東突厥を服属させ、吐谷渾を隋の領域に編入させたが、高句麗遠征は失敗に終わった。
- C 北突厥を服属させ、吐谷渾を隋の領域に編入させ、高句麗遠征にも多大な成果をあげた。
- D 西突厥を服属させ、吐谷渾を隋の領域に編入させたが、高句麗遠征は失敗に終わった。

設問5 空欄[オ]に入る人物名を答えなさい。

設問6 下線部[カ]について、高宗時代の対外的な軍事活動と関連性がないのはどれか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 東突厥を平定して単于都護府を設置した。
- B トルキスタンを支配していた西突厥を討伐した。
- C 高句麗を滅ぼし、平壤に安東都護府を設置した。
- D 南詔を滅ぼし、安南都護府を設置した。

設問7 下線部[キ]の府兵制の説明として適切ではないのはどれか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 兵役中は、租税の負担を免除した。
- B 兵役中は、徭役の負担を免除した。
- C 兵役中は、辺境の防人としての勤務を免除した。
- D 軍事訓練は、農閑期に実施された。

設問8 下線部[ク]について、この制度による負担としてもっとも適切なものを以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 兵役期間中、衣服や武器は自己負担であった。
- B 兵役期間中、衣服は支給されたが、武器や旅費は自己負担であった。
- C 兵役期間中、武器は支給されたが、衣服や旅費は自己負担であった。
- D 兵役期間中、衣服や武器は支給されたが、旅費は自己負担であった。

設問9 下線部[ケ]について、第6代皇帝の時代に導入された兵制を答えなさい。

設問10 下線部[コ]の高句麗について、適当ではないものをA～Dのなかから選択しなさい。

- A 鴨緑江中流域を中心に樹立された。
- B 4世紀初期に樂浪郡を滅ぼした。
- C 5世紀には平壤に遷都した。
- D 高麗は高句麗王家の子孫によって建国された。

設問11 下線部[サ]について、この身分制度を答えなさい。

設問12 下線部[シ]について、渤海と新羅の共通点ではないものをA～Dのなかから選択しなさい。

- A 仏教文化が栄えた。
- B 高麗の攻撃を受けて滅亡した。
- C 中華文明を積極的に摂取した。
- D 唐の冊封を受けた。

(02)

[ス]10世紀前半から16世紀初期まで、西アジアでは、軍人による政治権力の掌握がすすみ、いわゆる軍人政権が各地に割拠した。これらの軍人の多くは、イラン系・トルコ系・モンゴル系などの遊牧民出身者であった。馬や弓矢を用いた戦闘にすぐれた能力を発揮した彼らは、カリフやスルタンなどに[セ]軍事用の奴隷として購入された。また、セルジューク朝のように、族長の指揮のもとに集団で西アジアに進出する場合もあった。ただし、軍人の主流を占めるようになったのは、前者の場合であった。戦士による政治権力の掌握は、ほぼ同じ頃の日本と共通する現象といえよう。[ソ]だが、日本と西アジアの軍人政権の間には、かなりの相違点も存在した。

10世紀頃の西アジアでは、軍人に俸給として一定の土地の徴税権を与える制度が始まった。軍人に授与されたそうした徴税権をイクターという。イクターを授与された軍人は、自ら税を徴収して部下や家族や馬を養った。イクター制は、[タ]が、イラクのサワード地域で実施したのが最初といわれる。セルジューク朝時代になると、イクター制はイランからシリアへと拡大し、[チ]アイユーブ朝時代には、エジプトでも施行された。

軍人政権の支配は、けっして露骨な暴力による支配ではなかった。軍人に採用される際には、イスラームへの改宗がおこなわれた。また、支配者や地方総督として統治にあたる場合には、イスラーム法にもとづいた行政を実施した。ただし、異民族で異教徒の出身である軍人がイスラームの理念と法にもとづいた統治を実施するためには、イスラーム法の専門知識を備えたウラマーの協力が必要だった。10世紀以降、軍人の支配者は、宰相や裁判官などの要職にウラマーを任命し、モスクなどの宗教施設を積極的に建設した。他方、ウラマーは官職や権益を求めて行政に参画した。支配者や総督などの軍人層とウラマーの間には、こうした協力関係が形成された。すなわち、軍人政権を支えた行政官や裁判官とは、主要都市のマドラサで法学を学んだウラマーたちであった。そして、そのことにより、イスラーム法は個別の王朝の領域をこえ、普通の法として広まっていった。

10世紀後半から11世紀前半の西アジアでは、ファーティマ朝やブワイフ朝が広大な地域を支配し、それらの王朝が信奉したシーア派が優勢となった。10世紀初期に樹立されたファーティマ朝の支配者はカリフを称し、アッバース朝カリフの権威を否定した。10世紀後半、この王朝は征服したエジプトに[ツ]を建設し、そこに遷都した。アズハル学院は、その都市に設立されたイスラーム世界最古の高等教育機関である。[テ]ファーティマ朝時代のアズハル学院は、シーア派の教義を広める高等教育機関として機能した。10世紀前半に北西イランに成立したブワイフ朝もシーア派であったが、この王朝はアッバース朝カリフの権威を尊重した。[ト]946年、バグダードを占領したブワイフ朝の支配者は、アッバース朝カリフより大アミールに任命された。

一方、11世紀前半に樹立されたトルコ系のセルジューク朝は、スンナ派(スンニー派)の保護者となった。この王朝の軍隊は、1055年にバグダードに入り、ブワイフ朝の勢力を一掃した。アッバース朝の首都をスンナ派のもとに奪還したセルジューク朝の[ナ]は、アッバース朝カリフから[ニ]フズィールの称号を授与された。これ以降、その称号は、イスラーム諸国の支配者の称号として使用されるようになっていく。[ヌ]セルジューク朝は、領内の主要都市にマドラサを設立し、スンナ派の発展に努めた。なお、[ネ]セルジューク朝は、官僚にイラン人を採用し、ペルシア語を行政用語とした。

13世紀には、モンゴル人の進出も活発化し、トルコ系のホラズム朝(ホラズム=シャー朝)はチンギス=ハンに敗れた。アッバース朝は[ノ]によって滅ぼされた。

設問13 下線部[ス]のような状態について、『世界史序説』の著者は、「神はイスラーム共同体の秩序を守り、繁栄を維持させるため、これらの軍人をつかわせた」と考えたという。この人物を答えなさい。

設問14 下線部[セ]について、こうした人々は何とよばれたか答えなさい。

設問15 下線部[ソ]について、西アジアの軍人政権に関する記述として適切ではないものを以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 軍人政権の支配者は、しばしば異民族の出身者であった。
- B 軍人政権の支配者は、しばしば異教徒の出身者であった。
- C 軍人政権の支配者は、一般にウラマーと敵対関係にあった。
- D 軍人政権の支配者は、一般にイスラーム法を尊重して統治した。

設問16 空欄[タ]に入る王朝を答えなさい。

設問17 下線部[チ]の王朝はスンナ派とシーア派のどちらを支持したか。

設問18 空欄[ツ]に入る都市を答えなさい。

設問19 下線部[テ]のアズハル学院に関する適切な記述はどれか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A オスマン帝国の支配期に、スンナ派教学の最高峰の地位にあった。
- B マムルーク朝の成立後に、シーア派教学で最高の地位を確立した。
- C アイユブ朝の成立後に、イスマール派の高等教育機関となった。
- D ファーティマ朝の滅亡以前に、スンナ派の高等教育機関となった。

設問20 下線部[ト]について、大アミールに任命したことは何を意味したか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A ブワイフ朝の支配者の支配領域が公式に認められたことを意味した。
- B ブワイフ朝の支配者がアッバース朝カリフの権威を尊重したことを意味した。
- C ブワイフ朝の支配者がアッバース朝カリフに服属したことを意味した。
- D ブワイフ朝の支配者にイスラーム世界の軍事指導権と統治権を与えることを意味した。

設問21 空欄[ナ]に入る人物を答えなさい。

設問22 下線部[ニ]について、正しい場合は解答欄に○を記しなさい。正しくない場合は適当な語を解答欄に記しなさい。

設問23 下線部[ヌ]について、この王朝が設立した有名なマドラサで教授をつとめたイラン系のスンナ派神学者で、のちに神秘主義に傾倒してスーフィーになったのはだれか。この人物を答えなさい。

設問24 下線部[ネ]について、採用されたイラン系の人材のなかには、宰相として活躍した人物もいた。その人物を答えなさい。

設問25 空欄[ノ]に入る人物を答えなさい。

(03)

1877年、ヴィクトリア女王がインド皇帝を兼任してインド帝国が成立した。イギリスによるインドの植民地支配は、これによって名実ともに完成した。1901年当時、[ハ]すでにインド帝国に編入されていたビルマ(ミャンマー)を含めると、インド帝国の人口は3億に近かった。これに対し、イギリスの人口は4,100万であった。第2次大戦の開戦当時では、インド帝国の人口はイギリス帝国全体の70%を占めていた。イギリスにとって、インドがきわめて重要な植民地であったことが、こうした数字からもうかがえる。

インド帝国の軍隊は、イギリスがインドに駐屯させていた本国軍とインド人兵士を訓練して編成したインド軍とで構成されていた。そのうち、インド軍の兵員は、平時はほぼ13万~15万であったという。20世紀になるまで、インド軍の将校はイギリス人、兵士はインド人とほぼ決まっていた。その上、インド人はかなり後まで空軍に配属されず、また砲兵にもなれなかった。そのかわり、報酬や年金は豊かに支給されたようである。

植民地支配の本格的なスタート以降、インド軍の編成や任務は大幅に変化した。主な変化として、以下の3点が指摘されよう。

第1点は、兵員募集の対象が変化したことである。[ヒ]イギリスは、19世紀後半に入ってから、従来兵士として採用してきた北インド地方の上位カーストの人々や上層ムスリムの募集を停止した。彼らはインド社会の中でも本流意識を強くもつ人々であり、また伝統文化にこだわる人々であった。かわって注目されたのは、従順で剛勇な「尚武の民」であった。その中心は、シク王国滅亡後に傭兵となり始めた[フ]パンジャブ地方の人々であった。[ヘ]この地方に拠点をおいたシク教の教団では、カーストやタブーによる規制がさほど強くなかった。その上、[ホ]シク教団は、ムガル帝国に抵抗してきた歴史をもっていた。シク教徒は、インド社会におけるマイノリティ(少数派)集団であり、ある種の傍流意識をもつ人々であった。いわゆる「尚武の民」とは、そうした特徴を共有していた人々だった。上述のように、「尚武の民」の中心はパンジャブ地方の人々であったが、実際にインド軍のなかで圧倒的な比率を占めるようになるのは、その地方の出身兵であった。これが軍隊のパンジャブ化といわれる現象である。1871年当時、パンジャブ地方の出身兵はベンガル管区軍の35%を占めていたという。

第2点は、インド人部隊に「分割統治」の原則が採用されたことである。これは、あるイギリス人の将軍が、反乱の誘因として軍隊の団結性や均質性を指摘したことによる。その後のインド人部隊は、言語・民族・カースト・宗教などを異にする多様な人々で構成され、反イギリス活動で団結することが困難な集団となった。

第3点は、海外派兵という重要任務が加わったことである。19世紀後半以降、インド軍に要求されたのは、イギリス帝国の必要に応じて世界の各地へ出動することであった。そして、その費用の大半をインド政府が負担することであった。インド人部隊は、本来[マ]イギリス東インド会社の傭兵で組織され、基本的にインドを征服するための軍隊であった。だが、植民地の軍隊となって以来、彼らはインド国内の治安・戦闘要員よりむしろイギリス帝国の権益を保護するために派兵される軍隊に変質した。その最大の任務は、インドの北西辺境地域(現在のアフガニスタンとパキスタン国境地方)において、イギリスと利害が対立したロシアの動きに対処することであった。実際、インドは[ミ]第2次アフガン戦争で膨大な人員と財政負担を強いられた。それに次ぐ重要任務は、スエズ運河およびこれを経由してインドに至るルートを確保することであった。[ム]ウラービー(オラービー)の反乱鎮圧のためのエジプト出兵はその事例である。なお、以上のほか

に、^[メ]中国における義和団事件の鎮圧、イランをはじめとする中東やアフリカ地域への出兵など、多数の海外派兵が実施された。インドは安価な兵隊貯蔵庫とみなされ、イギリス軍勢力の一部としてボックス=^[モ]の軍事・外交を支える任務をおびた。そして、その費用のほとんどはインド政庁の財源でまかなわれたのである。

設問26 下線部[ハ]について、ビルマ(ミャンマー)がインド帝国に併合された年を答えなさい。

設問27 下線部[ヒ]について、この募集停止の原因となったと考えられる事件を答えなさい。

設問28 下線部[フ]について、この地方に関する記述として適切なものを以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A インド北西部のインダス川中流に位置する。中央アジアとインド亜大陸を結ぶ通路が存在し、西方の諸勢力はここを通過してインドへ進出した。
- B インド西部に位置する。14世紀末にイスラーム王朝が成立したが、ムガル帝国のアクバルに征服された。その後、マラーター勢力が進出した。
- C インダス川の下流に位置する。インダス文明の遺跡であるモエンジョ=ダロが存在する。古くから西方の諸勢力が進出を繰り返した。
- D ガンジス川などの河川が形成するデルタに位置する。13世紀以降にイスラーム化が進行し、ムガル帝国時代はインドで豊かな地方のひとつであった。

設問29 下線部[ヘ]について、シク教に関する適切な記述はどれか。以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A カースト制や苦行を否定し、偶像崇拝を肯定した。
- B 偶像崇拝や苦行を否定し、カースト制を支持した。
- C カースト制や偶像崇拝を否定し、苦行を禁止した。
- D カースト制を否定し、偶像崇拝や苦行を肯定した。

設問30 下線部[ホ]について、ムガル帝国時代のシク教団の動向として適切ではないのはどれか。

以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A 第5代のグル(師、教主)がムガル帝国の権力闘争に巻き込まれた。
- B 第5代のグル(師、教主)の自殺後、シク教団の武装化が進んだ。
- C 第10代のグル(師、教主)は、シク教団の軍隊化を推進し、ムガル帝国に抵抗した。
- D シク王国を樹立したが、19世紀中頃、ムガル帝国に滅ぼされた。

設問31 下線部[マ]について、彼らは何とよばれたか答えなさい。

設問32 下線部[ミ]について、この第2次アフガン戦争の結果を以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A イギリスは、アフガニスタンの独立を認めた。
- B イギリスは、アフガニスタンを保護国化した。
- C イギリスは、アフガニスタン北部から撤退した。
- D イギリスは、アフガニスタン南部を制圧した。

設問33 下線部[ム]について、この反乱の記述として適切なものを以下のA～Dのなかから選択しなさい。

- A この反乱は、エジプトの民族運動の出発点となった。
- B 反乱の指導者は、ムハンマド=アリー朝の王族であった。
- C この反乱は、イギリスとフランスの共同出兵で鎮圧された。
- D この反乱では、「ムスリムのためのエジプト」というスローガンを掲げた。

設問34 下線部[メ]には、8カ国の軍隊の出兵が重要な役割をはたした。以下のA～Dのなかから、この時に出兵しなかった国を選択しなさい。

- A アメリカ
- B イタリア
- C オーストリア
- D ポルトガル

設問35 空欄[モ]に入る語を答えなさい。

2 以下の問題文(04)～(08)を読み、設問の指示にしたがって解答しなさい。

(04)

5世紀後半にメロヴィング家のクローヴィスが全フランク人を統一し、[ア]ガリア中部を支配下に置いた。さらに彼が[イ]正統派キリスト教に改宗したことは、ローマ教会とローマ人貴族の支持を獲得し、フランク王国が西ヨーロッパの中心勢力となる一因となった。フランク王国は6世紀の半ばには[ウ]王国などを征服し、全ガリアを統一したが、8世紀になると王権は衰え、実権は宮宰に移っていった。

[エ]アラブ人のイスラーム教徒がアフリカ北岸を占領し、ジブラルタル海峡を渡り、西ゴート王国を滅ぼし、さらにピレネー山脈を越えてガリアに侵攻した。メロヴィング朝の宮宰カール=マルテルは、732年トゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を撃退し、西方キリスト教世界をイスラームの征服から守った。その子ピピンは、メロヴィング朝を廃して王位についた。

ピピンの子カールは[オ]王国を征服し、ザクセン人を服従させた。また大多数のゲルマン諸部族を統合し、[カ]ローマ=カトリックに改宗させた。さらに[キ]南ではイスラーム教徒を、東ではアヴァール人を撃退し、西ヨーロッパの主要部分はフランク王国によって統一された。カールは広大な領土を州に分け、地方の有力豪族を各州の長官である[ク]に任命し、巡察使を派遣して[ク]を監督させて集権的に支配した。

800年のクリスマスの日に、教皇レオ3世はカールにローマ皇帝の帝冠を与え、「西ローマ帝国」の復活を宣言した。ここに復活した西ローマ皇帝は、[イ]正統派キリスト教徒の政治的指導者を意味し、やがてこの理念は神聖ローマ帝国に継承されることになる。カールの戴冠は、政治的・文化的・宗教的に独立した西ヨーロッパ世界の誕生という重大な歴史的意義を持つ。ローマ帝国の地中海世界は、西ヨーロッパ世界、東ヨーロッパ世界、イスラーム世界の三つに分かれて、独自の歴史をあゆむようになった。

設問1 下線部[ア]について、この地をローマ時代に征服した人物と同時代の人物を下記の選択肢から一人選んで記号で答えなさい。

- A タキトゥス B リウィウス C プルタルコス D キケロ
E プリニウス F ポリビオス G セネカ H ストラボン

設問2 下線部[イ]について、これに該当するものを下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A ネストリウス派 B グノーシス派 C アタナシウス派
D ドナトゥス派 E アリウス派

設問3 空欄[ウ]に当てはまる語を答えなさい。

設問4 下線部[エ]について、このイスラーム王朝の首都があった地名を下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A アレクサンドリア B ダマスクス C メディナ D メッカ
E バグダード F コルドバ G イェルサレム H カイロ

設問5 空欄[オ]に当てはまる語を答えなさい。

設問6 下線部[カ]について、カトリックとはいかなる意味なのか答えなさい。

設問7 下線部[キ]について、カールの対イスラーム戦を舞台にした中世ヨーロッパの叙事詩を答えなさい。

設問8 空欄[ク]に当てはまる語を答えなさい。

(05)

神聖ローマ帝国では、1438年から帝国が滅亡する1806年まで、オーストリアに所領を持っていたハプスブルク家の出身者が、少数の例外を除いて皇帝に選ばれた。「最後の騎士」と呼ばれた[ケ]皇帝マクシミリアン1世は帝国の様々な行政改革を図ったが、大半は失敗に終わった。他方、彼は巧みな婚姻政策によって領土を拡大し、のちのハプスブルク家飛躍の基礎を築いた。マクシミリアン自身は、ネーデルラントやフランス東部に広大な領地を有する[コ]公女と結婚し、二人の間に生まれたフィリップ美公を[サ]アラゴン王フェルナンドとカスティリャ女王イサベルの娘と結婚させた。

フィリップ美公の子であるカールは若くしてスペイン王カルロス1世として即位した後、[シ]フランス王との選挙に勝利し、神聖ローマ帝国皇帝カール5世となった。彼の所領は、オーストリア、ネーデルラント、フランス東部のフランシュ・コンテ、スペイン、[ス]中南米の植民地、南イタリアなど広大なものとなった。また、弟のフェルディナントも、ハンガリーとベーメンを支配するヤゲウォ朝の王女と結婚し、1526年にオスマン帝国軍との戦いでラヨシュ2世が敗死したことにより両王国の支配権を継承した。しかし、[セ]ハンガリーの大部分は、これ以降150年以上もオスマン帝国の支配下に置かれた。

設問9 下線部[ケ]について、彼の政策が抵抗を受け、事実上独立したような状態になったのはどこか答えなさい。

設問10 空欄[コ]に当てはまる語を答えなさい。

設問11 下線部[サ]について、二人はローマ教皇から「カトリック両王」の称号を贈られたが、いかなる功績に対してであったのか答えなさい。

設問12 下線部[シ]について、このフランス王の名を答えなさい。

設問13 下線部[ス]について、修道士ラス=カサスがカルロス1世への「インディアスの破壊についての簡潔な報告」で糾弾している土地制度を答えなさい。

設問14 下線部[セ]について、オスマン帝国が支配下のハンガリーの主要部分をオーストリアに割譲した条約名を下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A キュチュク=カイナルジ条約
- B アドリアノーブル条約
- C カルロヴィッツ条約
- D ベオグラード条約
- E サン=ステファノ条約

(06)

モンゴル帝国皇帝[ソ]の命で実施された[タ]西征の総司令官バトゥは、南ロシアのサライを首都として[チ]を建て、スラヴ人諸侯を利用して間接支配した。その後ロシアでは諸侯国間の盛衰が繰り返されたが、内陸交通の要衝にあるモスクワ大公国が台頭した。イヴァン3世は諸侯国を併合、国土を統一し、1480年にはモンゴル支配から完全に脱した。またビザンツ帝国最後の皇帝の姪と結婚しツァーリの名称と帝国の紋章を継承し、ビザンツ皇帝の後継者・ギリシア正教の守護者を自任した。その孫イヴァン4世の時代に最盛期を迎えたが、その死後急速に衰え、混乱の中で滅亡した。

その後ロシアでは動乱が続いたが、1613年にミハイル=ロマノフが全国会議でロシア皇帝に選ばれロマノフ朝を開いた。ロシア絶対王政を確立した[ツ]ピョートル1世は、ロシアの西欧化・近代化に努め、北方戦争でスウェーデンを破りバルト海の覇権を握った。この間にネヴァ川の河口に新都[テ]ペテルブルク(サンクト=ペテルブルク)を築き「西欧への窓」とした。ピョートルの死後、一時国内は乱れたが、女帝エカチェリーナ2世の下で再び皇帝権が強化され、専制政治が行われた。彼女の時代にロシアは領土を大幅に拡大した。南下政策を本格的に展開し、二度の対トルコ戦争でクリミア半島などの黒海北岸を獲得した。三度にわたるポーランド分割を行ってポーランド王国を消滅させ西方にも領土を広げた。ロシアが日本に[ト]を派遣し、通商を求めたのも彼女の時代であった。

設問15 空欄[ソ]に当てはまる人名を下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A チングス=ハン B オゴタイ=ハン C フビライ=ハン
D モンケ=ハン E グユク=ハン

設問16 下線部[タ]について、この遠征でドイツ・ポーランド諸侯連合軍を破った戦いを選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A レヒフェルトの戦い B ワールシュタットの戦い C モハーチの戦い
D アンカラの戦い E コソヴォの戦い

設問17 空欄[チ]に当てはまる語を下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A オゴタイ=ハン国 B イル=ハン国 C クリム=ハン国
D チャガタイ=ハン国 E キプチャク=ハン国

設問18 下線部[ツ]について、ピョートル1世が導入した暦は何か、下記の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- A ヒジュラ暦 B 太陰暦 C ユリウス暦 D グレゴリウス暦
E 革命暦

設問19 下線部[テ]について、この現在名になる前の都市名を答えなさい。

設問20 空欄[ト]に当てはまる人名を答えなさい。

(07)

[ナ]16世紀後半になると、アメリカ大陸におけるイギリスの植民活動が活発になり18世紀の前半には13の植民地が成立するようになった。これらの植民地の相互の関係はきわめてうすく、植民地全体が協力したり、統一したりする傾向は全くなかった。それでも、いずれの植民地も本国に不満をもつ人々が建設したもので、大陸に定住して自由な社会を作ろうとしていた。他方、イギリス本国は、植民地を本国の利益のためにのみ利用しようとし、植民地の商工業の発達を抑制する政策を続けていた。

[ニ]七年戦争後フランスの脅威がなくなると、植民地は本国の保護を不必要と考えるようになった。ところが本国は、戦争による財政上の窮乏から植民地に対する課税を強化し、1765年、印紙法を制定した。これに対し植民地は「[ヌ]」と強く反対し、本国は印紙法を撤回したが、課税の試みは続けられた。1773年、財政難となった[ネ]イギリス東インド会社を救済しようとして茶法が制定されると、植民地の反抗はボストン茶会事件を引き起こし、両者の衝突は避けがたいものとなった。

1775年4月、ボストン近郊のレキシントンでの武力衝突により独立戦争が始まり、[ノ]で開かれた大陸会議でワシントンが植民地軍の司令官に選ばれた。大陸会議は、[ハ]、トマス=ジェファソンを中心として起草された[ヒ]「独立宣言」を発表した。植民地軍は、はじめ苦戦を続けていたが次第に不利を克服した。ヨーロッパ諸国、とくにフランスは軍資金や義勇軍をもって助け、1778年にはフランスが独立を承認してイギリスに宣戦、スペインもこれにならった。また[フ]の提唱によってヨーロッパの多くの国が武装中立同盟を結んで、イギリスを牽制したことは、植民地軍に有利となった。1781年、イギリス軍の本拠地ヨークタウンが陥落し、イギリスは1783年、パリ条約を結んでアメリカ合衆国の独立を承認した。

設問21 下線部[ナ]について、最初に建設された植民地の名を答えなさい。

設問22 下線部[ニ]について、北米での戦争名を答えなさい。

設問23 空欄[ヌ]に当てはまる植民地側の論理を表す言葉を答えなさい。

設問24 下線部[ネ]について、この会社がインドに活動の中心を移すことになった出来事を答えなさい。

設問25 空欄[ノ]に当てはまる地名を答えなさい。

設問26 空欄[ハ]に当てはまる年月日を答えなさい。

設問27 下線部[ヒ]について、この中で非難されているイギリス王はだれか答えなさい。

設問28 空欄[フ]に当てはまる人名を答えなさい。

(08)

[へ]パリ講和会議では、連合国とドイツとの間にヴェルサイユ条約が結ばれたほか、オーストリアとサン=ジェルマン条約、[ホ]とヌイイ条約、ハンガリーとトリアノン条約、[マ]とセーヴル条約が締結され、大幅に国境が変更された。これら一連の講和条約がもとになり「ヴェルサイユ体制」と呼ばれる国際的体制が作り出された。

ドイツはヨーロッパの領土の7分の1、人口の10分の1、[ミ]すべての海外植民地を失ったばかりでなく、きびしい軍備制限が課され、非武装地帯の設定、連合国軍によるラインラントの15年間保障占領が決定され、巨額の賠償金も課された。オーストリア=ハンガリー帝国を解体してオーストリア、ハンガリー、チェコスロヴァキアを建て、その残りのかなりの部分をセルビアがあわせてユーゴスラヴィアを形成した。新たに独立したポーランドはドイツ、オーストリアから領土を与えられ、ルーマニアはハンガリーから、[ム]イタリアはオーストリアから領土を加えた。

ヴェルサイユ条約第1編の国際連盟規約に基づき、国際秩序の維持と国際平和のための常設機関として国際連盟が設立された。アメリカは条約を批准せず、国際連盟に加盟しなかった。ヴェルサイユ体制下の国際政治はすでに1920年代の初期に賠償問題などをめぐって激しく動揺した。[メ]20年代中期には、ドイツと英・仏などとの間に協調外交が展開され、また多くの国がソ連を承認するなど、国際政治は一時的に安定した。しかし、1929年以降世界恐慌の下で再び動揺におちいり、とくにドイツでこの体制の打倒を掲げる[モ]ナチスが政権を獲得し、再軍備宣言、ラインラント進駐、オーストリア併合などを推し進めると、この体制は急速に崩壊に向かった。

設問29 下線部[へ]について、この会議で講和の基礎とされたものを答えなさい。

設問30 空欄[ホ]に当てはまる国名を答えなさい。

設問31 空欄[マ]に当てはまる国名を答えなさい。

設問32 下線部[ミ]について、当てはまらないものを下記の選択肢から一つ選んで記号で答えなさい。

- A マーシャル諸島 B カメルーン C タンザニア D ルワンダ
E ナミビア F ソマリア

設問33 下線部[ム]について、イタリアがオーストリアから得た場所を一つ答えなさい。

設問34 下線部[メ]について、通貨の安定と経済の再建に努力し、協調外交によるドイツの国際的地位回復に貢献した人物を答えなさい。

設問35 下線部[モ]について、正式な名称を答えなさい。